

平成 30 年度の学校評価目標

- 1 建学の精神 「不言実行 あてになる人間」の具現化
- 2 普通科とシステム科を併せ持つ、多様な選択肢のある教育
- 3 授業を大切に、授業工夫を行うことで、「わかる授業」の展開と推進
- 4 一貫コースを中心とした高大連携教育
- 5 豊かな自然、恵まれた教育環境の中での自己実現
- 6 校則を守り、公共心や公正さを育む教育

	重点目標	具体的方策	留意事項
渉外部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 一般志願者を増やし、募集定員を確保する (2) 女子生徒数の志願者増をめざす (3) 中部大学との「高大一貫教育」を中心に、他校との差別化を進める (4) 普通科、機械電気システム科各コースの「個性を生かす教育」を発信する 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 地元重点地区を中心に、きめ細やかな募集活動を継続する。また、学校評価の向上を目指し、募集の一部見直しを行う。学校見学会では、一層在校生を運営に参加させ、参加者の満足度の向上を目指す。 (2) 女子を意識した広報物を増やし、女子生徒の活躍の情報をより伝える。 (3) 高大一貫教育では、中部大学での進学説明見学会を中学生全学年(保護者)を対象とする行事として、本校の優位性を広範囲にアピール機会とする。 (4) 普通科各コースと機械電気システム科の個別リーフレットの発行に向けて準備する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学校見学会実行委員は年間の係として、年度当初に選出し、実行委員主体の運営を目指し、参加者の満足度向上に繋げる。 (2) 女子生徒の活躍を、進路状況等も含めて見学会で積極的にアピールする。 (3) 在校生及び保護者一人ひとりの満足度が、学校評価に直結しているので、各分掌と学年の協力を得て、質の一層の向上に努める。 (4) スクールバスの改編は、今後の募集活動への影響を鑑みつつ案を作成する。
総務部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 平成30年度修学旅行の実施に向けての取り組み (2) 授業内実施型避難訓練の実施 (3) 新入生オリエンテーションの充実 (4) PTA総会の充実 (5) 中部大学見学会の充実 (6) すすんで朝読書ができるようにする 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 平成30年度からの取扱業者の変更に伴い、29年度の反省をもとに次学年に引き継ぐ。 (2) 生徒への連絡無しの避難訓練を実施し、非常勤を含めた職員組織の円滑な行動を図る。 (3) 校内生活に関する内容は校内で、中部大学では高大連携意識を高める内容を計画する。 (4) 本年度も参加者増員をねらいとして、進路説明会を計画する。 (5) 保護者の要望の多い内容・見学コースを設定する。PTA総会で企画の広報を行う。 (6) 図書館と連携をし、本の紹介や読書の呼びかけを行う。落ち着いた読書ができるようなマニュアル作りを行う。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学年と準備の進捗状況を頻繁に交わしながら、取扱業者の変更に対応する。 (2) 放送が使えない場合の非常持ち出し袋等の準備や、傷病者への対応等も考える。 (3) 総合検診日の行事と調整を図りながら校内の研修内容の精選、本学の歴史と学園との関係についても講義の内容とする。 (4) PTA総会后、本年度も進路講話を実施し、希望者には学級懇談も実施する。 (5) できるだけ多くの教員の参加を呼びかけ、高校生活の質問にも対応できるようにする。 (6) 朝読書は、スクールバス遅れにより雰囲気不乱れないように指導していく。
教務部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 新学習指導要領の内容をふまえた生徒の自発的探求を促す教育課程への移行 (2) ICT教育対応に向けての準備検討 (3) 新校務システムへのスムーズな移行と効率的な利用の定着 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各教科・科目で「持続可能な開発目標「SDGs）」を教育課程に位置づけ、SDGsの実現にむけた資質・能力の向上を目指し、問題解決能力・コミュニケーション能力等を育む。 (2) 機械電気システム科iPad導入による自発的探求を促す授業展開に向けて、ICT機器を利用できる環境を整備し、積極的利用を図る。 (3) 新校務システム利用を積極的に行い、利用をしながら問題点の解決を図り利用効率を上げる。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 教育課程の位置づけは、1年生から年度進捗で行う。総合的な学習の時間についても「ESD探求」として位置づけ展開を試みる。 (2) ICT環境については、整備まではパソコン室・キヤド室を利用して運営する。 (3) 新校務システムについては、各分掌と情報部が連携して早急にシステムの完成を図る。
生徒指導部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 身だしなみ指導の徹底と生活規律の向上に努める。 (2) 登下校時のマナーの向上と交通安全に努める (3) いじめ防止とSNS利用に関するモラル指導に努める。 (4) 携帯電話の取り扱いの徹底を図る。 (5) 薬物乱用防止についての指導を行う 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 全校集会、学年集会を通して、問題行動を未然に防ぐ指導を徹底する。 (2) 街頭指導並びに啓発活動により、交通事故防止、交通マナー向上に努める。 (3) 外部業者のネットパトロールを利用し、初期対応の迅速化を図り、関係者との連携を密にする。いじめによる問題行動防止のため、細やかな姿勢で対応する。 (4) 校内での携帯電話取り扱いルールの徹底を行う。 (5) 薬物乱用の講習を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 朝の校門指導などで挨拶運動を行うなど、積極的に生徒の様子を観察し、早期に指導する。 (2) PTAによる街頭指導のサポートや自動車学校の協力を得て自転車マナー指導を行う。 (3) ネットパトロールやいじめアンケートの結果等で、問題を早期に発見し、学年の協力を得て早期に対応できるようにする。 (4) 教員間の指導の温度差を無くすために、学年運営委員会や学年会で、指導の体制を構築する。 (5) 外部講演以外にも全校集会等で生徒に危険を呼びかける。
特活部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒会執行部の活性化、全員参加型の生徒会行事内容の質の向上と魅力を高める (2) 部活動を物心両面で支援する (3) 学年・分掌との連携を図り、教育相談の円滑化を図る 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒会の役員定数の増員を検討し活性化を図る。学校見学会での生徒会学校ツアー等の昨年度の新企画を充実発展させる。 (2) 壮行会、優勝報告会等を充実させる。 (3) 学年会と連携し、学校カウンセラーによる教育懇談会を実施し、相談を必要とする生徒への速やかな対応に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 書記・会計の役員定数を増やし、生徒会役員の組織の強化を図り、生徒会企画の充実発展を目指す。校内美化コンクールを行い、生徒の意識を高め校内美化の推進を行う。 (2) 壮行会のあり方を検討するとともに、部活動推進費の配分について昨年度の決算額等を考慮し、本年度予算額を年度初めに検討する。 (3) 各学年で特徴的な教育相談に関する内容をとりあげ、教育懇談会等を通して、生徒の状

			況に応じて速やかに対応できるように教員の資質を高める、
情報部	<ul style="list-style-type: none"> (1) 新校務システムの有効的な運用方法の確立 (2) ICT機器を利用した授業展開の検討 (3) ICT教育の具体的な取組に関わる無線ネットワークシステムの構築検討 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 新校務システムの本格稼働に伴い、各機能の友好的な利用方法を確立させる。 (2) タブレット個人購入向けに向け、具体的に準備検討する。電子黒板の充実化。 (3) ネットワーク接続状況を検証し、タブレット本格導入に備える。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各機能を整理し、有効的に利用できる機能を明確にし、解説書を閲覧できるようにする。また必要に応じて説明会を実施する。 (2) タブレット授業の活用方法について情報提供と講習会を計画する。 (3) タブレットを用いた授業展開に向けて、回線容量等無線ネットワークが安定的に利用できるよう長期的に計画検討する。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> (1) 中部大学入学者166名を実現させる (2) 国公立大学合格者10名を実現させる (3) ポートフォリオをはじめ、入試改革への準備を進める (4) 生徒の希望、適性にあった企業選択を指導し、就職一次合格率90%以上を維持する 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学部別説明会・出張授業・中部大学で学ぶ先輩との懇談会等で学部学科の理解と進学意欲を高める。 (2) 学校全体でサポートする体制を作る。生徒の状況、入試形態に応じて、きめ細やかな個別指導を行う。 (3) 新入試について情報収集をし、教育課程委員会等で情報を共有する。ポートフォリオ対策として、学びについての調べ学習等の進路研究の機会を増やす。 (4) 就職希望者には会社の情報を伝える面談を適宜行い、担任と情報の共有と生徒の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 希望者数増加を目指すと同時に、ミスマッチの防止にも努める。 (2) 早期対応を心がけると同時に、教員間の協力体制を作る。 (3) 各部署と連携し、具体的なシステムを早期に完成させる。 (4) 教員や保護者ではなく、生徒自身が選択をするよう指導する。
普通科	<ul style="list-style-type: none"> (1) 入試改革へ対応し、新カリキュラムを見据えた指導の体制を構築する (2) 中部大学・国公立大学の合格者数増と、生徒の学力保証を目指す指導を行う (3) コース毎に進路目標を早期に設定し、豊かな人間性を養いつつ、きめ細やかな進路指導に繋げる 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 1年生の総合的な学習でESDを取り入れ、探求型の学習を進める。また、ポートフォリオの蓄積をふまえたホームルーム運営を心がける。 (2) 英語の学び直しは英語Ⅰに委ね、過去問演習など対策を強化して、英語検定合格率の向上に繋げたい。また、自習室の運営方法を再検討し、スタディサブリの活用を含め、個別指導と学習支援の体制を強化する。 (3) 進路研究会を継続し、中部大学をはじめとする大学理解をし、進路指導方法の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 入試改革を見据えた探求型の学習実施のための準備を、学年連携で進める。 (2) 自習室運営は、教養部の活動と連動したものを考えたい。英検合格のために、担任の協力を仰ぎ、合格により、自信をつけさせ大学受験に繋げていきたい。 (3) 1年生が入試改革の受験初年度になるので、問題点を検討し、学年・進路・教科と連携し、しっかりと対応していきたい。
機械電気システム科	<ul style="list-style-type: none"> (1) 資格・検定の合格者を増やすなど、生徒の専門能力の向上を図る (2) 地域貢献を視野に入れた対外的な活動の拡充と実績の向上を図る (3) 機械電気システム科としての特徴づくりと立案を図る (4) 専門課程を学ぶ意義を理解させるとともに、進路意識の高揚を図る 	<ul style="list-style-type: none"> (1) ジュニアマイスター顕彰取得率の増加や、社会的に高く評価されている試験の合格実績の向上を図る。 (2) 各種競技会、地域イベントへの積極的参加を教員や生徒に働きかける。 (3) 学校法人の行動計画、SPH申請など、機械電気システム科の将来を視野に入れた計画を実施する。 (4) 教員の資質向上のために研修を行い、授業の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 資格試験を考慮した授業内容の工夫や、授業効率の工夫、施設の充実に努める。 (2) 各種競技会の早期情報収集を図り、研究や準備を充分行う。 (3) 本校の取組を明確にする。大学、幸友会及び一高会との連携の強化を図り、地域協働についても検討する。 (4) ICT機器を活用した学習システムを構築し、生徒の基礎学力の向上及び授業の充実に努める。
一年生	<ul style="list-style-type: none"> (1) 人の話を聞ける生徒の育成と、高校生としての自覚を持たせ、心身の成長を図る (2) 授業規律を守り、基礎学力の定着を図るとともに、早期に学習目標を設定させ、資格取得等に扶助する (3) 自主性を磨き、行動力を備えさせる。(行動する。失敗したら考えさせる。行動する) (4) 将来の進路実現を見据え、目標と課題を意識させる具体案を示すとともに、課外活動にも意欲的に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校生活を通じて、ルール・マナーを守るモラルを高めることを意識させることで、規則正しい生活習慣と高校生としての自覚を持たせる。 (2) 普通科は英語検定3級以上の取得率向上のために、ST時とHR時の英語単語テストを実施し、英語力の向上を目指す。機械電気システム科は基礎学力の定着を柱に、マナトレ、クラッシーの導入により自学力の向上を目指す。 (3) 様々な教育活動から成功体験を積むことで自信を持たせ、素直で豊かな心を持った生徒になるよう指導・支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 高校生として基本的な生活習慣と学習習慣の定着に重点を置いて指導する。そのため、教員間で指導の温度差が生じないように、学年団と関連分掌と連携を図りながら取り組む。 (2) 安定して落ち着いた授業態度、成績向上に向けての取り組み、資格取得に対してその意義や必要性を理解させ、行動し結果を出させる。 (3) 部活動、学校行事、生徒会活動、ボランティア活動、ESD活動など積極的に参加させ取り組むことを促す。
二年生	<ul style="list-style-type: none"> (1) 併設校希望者の増加のための意識付けを図る (2) 進路目標を明確化する。 (3) 身だしなみ・携帯電話取扱指導の徹底と指導面の連携強化を図る (4) 学校内で中心的役割を 	<ul style="list-style-type: none"> (1) オープンキャンパス、出前授業、進路別説明会等で、中部大学の良さをアピールするとともに、進路説明会で保護者に併設校推薦についての理解を図る。 (2) 将来のビジョンが描けるように、進学者には校外模試・オープンキャンパス・学校見学会、就職者には企業見学会等で目標の明確化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 希望学部学科のミスマッチを防ぐために、見学会や説明会を実施する。 (2) 校外模試・オープンキャンパス・学校見学会等の実施。就職希望者に企業見学会を実施する。 (3) 身だしなみ・携帯電話の指導教員間で指導の温度差が出ないように、学年団と連携を図り

	<p>果たす生徒の育成に努める</p>	<p>(3) 身だしなみについては、集会等を通して通学時からの意識を図る。携帯電話については、使用時間だけでなく、使用目的・使用時のマナーやモラルについての指導を関係分掌・他学年と連携して取り組む。</p> <p>(4) 学習面では、授業規律を守り、学力の向上に、学校行事においても率先して取り組ませ充実感・達成感を体験させ自己有用感を高め心身の成長を図る。</p>	<p>ながら取り組む。</p> <p>(4) 部活動、学校行事、生徒会活動、ボランティア活動、ESD活動など積極的に参加させ取り組むことを促す。</p>
<p>三年生</p>	<p>(1) 最上級生としての自覚とリーダーシップの育成、規範的な行動の実践を図る</p> <p>(2) 主体的な進路決定と、目標の実現に向けて発展的な努力の継続を図る</p> <p>(3) コース、系に沿ったきめ細かな指導と、自らの将来を見据えた思考の育成を図る</p>	<p>(1) 学校生活全般を通して、模範的行動がとれるよう繰り返し指導をし、規範意識を高める。</p> <p>(2) 進路に関する細かな情報の発信と、目標具現化に向けた継続的な努力の定着を図る。</p> <p>(3) 自身の特性を活かした進路結果の追求と、進路先に向けての適応力を促す。</p>	<p>(1) 学年会等で生徒の様子を速やかに把握し、学年としての動きを迅速に行う。</p> <p>(2) 関係分掌と連絡を密にし、進路情報の収集に努め、生徒及び保護者への発信と適確な助言を行う。</p> <p>(3) 授業や補習を通じて、大学受験や就職試験、検定や資格取得の学習に対して、自立を促し努力の継続を図る指導を行う。</p>